

平成30年度 学校評価（最終報告）

<p>本年度の 重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着を図り、基礎基本となる知識・技術を習得させる。 ・学ぶ楽しさを体験させ、自ら学ぼうとする意欲と向上心を抱かせる。 ・基本的な生活習慣を確立させ、節度ある生活態度を身につけさせる。 ・計画的にキャリア教育を推進して自らの在り方生き方を考えさせるとともに、進路目標を早期に設定させ、その実現に向けて全力で取り組ませる。 ・部活動、学校行事、HR活動等を通して健やかな心と体の育成に努め、たくましく生きる力を養う。 ・美化活動、ボランティア活動等を通して、奉仕の精神や社会貢献の意識を育てる。 ・家庭及び地域と連携し、信頼され特色ある学校づくりに努める。 ・円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を構築する。 		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>広報活動 （総務部）</p>	<p>戦略的な広報活動の展開とPTA活動の活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生やその保護者の興味を高める学校案内を作成する。 ・ホームページを中心に、本校進学を志す中学生向けの広報活動をより一層推進する。 ・ホームページ等の広報活動の充実やPTA新聞「樗」をより魅力あるものへ改善し、信頼される学校づくりを進める。 ・教職員全員がPTAとの連携を一層強めることで、学校の活性化を図る。 ・保護者対象の研修会や進路講演会等を一層充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内は、管理職と担当者等と報告・連絡・相談を行いながら作成し、内容やデザイン等も含めて一新することができた。 ・ホームページを早く更新し、学校行事、部活動の状況、試合結果等の最新情報を掲載するよう努力した。また、個人情報等の保護に十分配慮している。 ・PTA新聞「樗」では、学校行事についてわかりやすい内容にするよう工夫に努めた。 ・保護者の期待に添うよう、他分掌と連携・協力を図りながら企画・運営を進めることができた。
<p>授業の活性化 （教務部）</p>	<p>公開授業週間のありかたを見直し、授業参観が活発になるような方法を取り入れて、授業改善の取組を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間に一人一コマの公開授業を設定してもらい、誰でも自由に参観できるようにする。授業参観シートも簡単に記入できる形式にし、即時に授業の感想や意見、質問が伝わるようにする。 ・教員経験者研修以外の研究授業では学習指導案も簡略化して負担感を減らし、気軽に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間のあり方自体を改善することができなかつたのは残念である。今後も継続して、より参加しやすいスタイルを作っていきたい。 ・校外で行われる様々な研修会、研究発表会等へ参加した先生方が、授業の中に生徒の主体性を中心に据えた活動を取り入れるようになってきている。こうした個々の取組を職員全体に広げ、授業改善に向けての雰囲気作りをしていく。
<p>キャリア教育の 推進 （進路指導部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した情報提供を行う。 ・大学入試問題・各種テストの分析を緻密に行う。 （1～3年） ・進路意識を高める。（3年） ・将来を見据えさせ、高校生活を前向きにさせる。（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路通信の配付及び進路講演会を効果的に実施する。 ・模擬試験や進路適性検査を有効に活用する。 ・講座・進路検討会及び主任面談を充実させる。 ・学年と連動しつつ継続的な啓蒙活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路通信は、各学年毎月概ね発行できた。 ・模試分析は各学年で実施できた。 ・今年も学年と連携をして主任面談を実施した。国公立プロジェクトクラスの生徒とは全員、その他の希望者とも行った。 ・進路講演会は、毎年講師に恵まれ、今年も生徒のみならず教員向けとしても参考になる内容であった。 ・進路検討会を年間3回行い、中身の濃い検討ができた。今年度も他学年の担任の先生に参加して頂き、意識の高い先生方が増えてきているので今後の進路指導の充実にも期待したい。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
交通安全 (生徒指導部)	自転車を大切に扱い、自転車安全利用五則を遵守した通学マナーの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導を通して時間と心に余裕を持つ意識の啓発に努める。 生徒安全委員の活動を促して自発的な安全行動を引き出す。 駐輪場の環境を改善し、自転車を大切にすることを育てる。 P T A活動を活用した広報活動を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻票や反省文の提出状況の悪さからも対症的な指導の限界を感じる。普段の自律的な生活習慣の定着必要性を強く感じる。 生徒安全委員の取組みは定着しているが、さらに目的に対する主体的な行動を起こすきっかけ作りを模索していきたい。 毎月の自転車調査が駐輪場の美化にも功を奏している。ただ、自転車の整頓に向けてはさらに一考を要する。 P T A活動との具体的な連携を図る機会を設けたい。
校内美化 (保健部)	校内美化を推進し、奉仕の精神や社会貢献の意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員による全清掃分担区域の点検を行い、点検結果を清掃監督に報告させる。 職員会議や校内放送を利用して、職員及び生徒に対して、季節・天候などに応じた重点目標を示していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員が各クラスの清掃状況を定期的に点検し、その結果をフィードバックさせ、環境美化がいっそう向上した。また、清掃道具を効率よく配備できた。 状況に応じた清掃・美化活動を実施することができた。
学校行事 (特別活動部)	<ul style="list-style-type: none"> 自主的・自律的な生徒会活動の促進・定着を図る。 部活動時間の厳守。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事のさらなる活性化を促進し、生徒が自らの手で企画・運営できるようにする。 福祉活動、ボランティア活動を活性化し、より多くの生徒が自主的に参加できるように、募集呼びかけを積極的に行う。 活動場所を巡回する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が積極的に企画・運営に関わり、充実した学校行事を展開することができた。来年度は、体育祭と文化祭を9月に学校祭として行うこととなった。初の試みでもあるため、今年度の反省をしっかりと踏まえて計画していきたい。 積極的なボランティア活動への参加が定着した。新しい取り組みとしては、総体スタッフとして参加したり、福祉実践教室を開いたりした。 どの部活動も活動時間は、おおむね厳守できている。
読書活動 (図書情報部)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の積極的な利用を促進し、生徒の読書活動を啓発する。 図書館報『藝林』の内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の図書館利用を促進し、朝読のより一層の充実を図る。 『藝林』の紙面をより魅力的なものになるように見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月のハロウィーン企画「BOOKの福袋」では、図書委員が中心となって企画・運営を進め、日頃図書館に足を運ばない生徒にも本との出会いを増やすことができた。今後も読書活動の啓発にさらなる工夫を重ねていきたい。
基本的生活習慣の確立 (第1学年)	基本的生活習慣と学習習慣を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 豊明高校生としての生活習慣を確立させるため、「朝読」指導を重視し、落ち着いて学習に向かう意識を持たせる。 授業を中心とし、特別講座や週末課題を交えながら効果的な学習指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内での携帯電話の使用が発覚するたびに学年集会を開いて注意喚起した。少しずつではあるが、校内での使用は減ってきたと感じている。 年間を通して週末課題を与え、提出状況も良くなっていることを考えると、家庭学習習慣はそれなりに確立された生徒が増えたと感じている。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
豊高生としての自覚を高める (第2学年)	基本的な生活習慣の確立、学習習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習や自学自習の定着を図る。 学校行事などへの積極的な参加を促す。 総合的な学習の時間や進路LTなどを通じて進路目標を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつではあるが、勉強習慣が身についてきた生徒が出始めてきた。 修学旅行や3年生を送る会などでこれまであまり前に出ることのなかった生徒が活躍する場面が増えてきた。 進路LTなどを通して自分の将来を考え始めた生徒も増えてきた。
進路指導 (第3学年)	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導の充実を図るなかで学習習慣を定着させる。 きめ細かい指導で規範意識を向上させる。 生徒に自信を抱かせ、前向きに取り組む姿勢を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を徹底し、毎日の授業を大切にする。 特別講座や土曜学習会への積極的な参加を促す。 試験結果を分析し、個々に応じた学習指導と進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「国公立プロジェクト」として、自習室を設置するなど、上位者向けの新しい取り組みを実施し一定の成果を得た。 学習全般では、自信を失わせることなく前向きに取り組めるよう指導法を工夫してきた。 早期入試を研究し、個に応じて積極的に取り組ませた。
いじめ防止対策の推進 (いじめ不登校対策委員会)	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 いじめの早期発見、適切な事案の対処に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、生徒が主体となっていじめ防止をテーマとした活動を行う機会を設ける。 いじめの情報収集、事案対処に係る学校いじめ防止対策組織の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の集会やHRでの討論会等の活動機会を設けたい。 個々のいじめ嫌がらせ事案に対しては関係職員間での速やかな情報共有と役割分担によって対処することができた事案もあるが、未然防止に係わる共通認識と取組みに力を注ぐことを引き続き課題としていきたい。 全職員のいじめに対する理解度に温度差があり、アンケートの主旨の理解や実施に差があった。経験からのいじめに対する正しい教員研修の実施が課題である。